

あなたのために 歌う。



絆

♪第1楽章 to you

思いをメロディーに乗せる
一人じゃなく、仲間と共に歌う
合唱だからこそ表現できる互いの絆

共に歌える喜びかみしめ
旋律に思いを乗せて

静まる会場に響く靴音。観客の視線がステージに集まる。指揮者が両腕を振り下ろすと、優しいタッチのピアノからイントロが流れ出す。

今年で32回を迎えた「東磐井サマーコンサート」(東磐井合唱連絡協議会主催)

は7月8日、藤沢町の縄文ホールで行われ、市内や気仙沼市から出演した14団体が美しいハーモニーを響かせた。

同コンサートは東磐井や気仙沼市の市民コーラス団体が共演する夏の風物詩だが、昨年は、東日本大震災で甚大な被害を受けた気仙沼市から参加はなく、ぽっかりと心に穴が空いたようだった。市内の団体はコンサートを通して集めた義援金を送るなど支援した。

今年も、気仙沼市から、そよかぜコーラス、コール・カルトヘル、コロ・ルポールム3団体がステージに立つたほか、合同でつくる気仙沼アマチュアコーラス連絡会(小山逸子代表)も特別出演し、復興への思いを歌に込めた。

東磐井からは地元の藤沢コーラスなど8団体が出演したほか、大東・千厩両高の音楽部が賛助出演し、伸びやかな歌声と美しいハーモニーで客席を魅了した。

一緒に歌える喜び、大切な人へ向けた思いなど、それぞれが気持ちを込めたコーラスを披露し、コンサートはヒートアップ。最後は出

- 1 「あすという日が」ふるさと」の2曲を歌った庄巻の全体合唱
- 2 トップを飾った浜民グリーンコール。指揮の声良さんがコーロ・ルポールムを指導したことがきっかけで気仙沼市との交流が始まった
- 3 急逝した指導者の尾形誠一さんを偲んで、尾形さんが編曲した「ふるさと」の山に向ひて」を歌う千厩ゴールド合唱団
- 4 賛助出演した千厩高校音楽部。美しいハーモニーが客席を魅了した
- 5 縄文ホールいっぱい伸びやかな歌声を響かせた地元の藤沢コーラス
- 6 会場の藤沢文化センター「縄文ホール」
- 7 講評を述べる講師の石井芳雄さんは一関合唱連合会顧問
- 8 合唱を終えた気仙沼のメンバーに花が贈られた
- 9 「しあわせ運べるように」を歌う気仙沼アマチュアコーラス連絡会
- 10 感謝を述べる小山代表



演者全員がステージに立ち、今回の講師でもある一関合唱連合会顧問の石井芳雄さん(修紅短大名誉教授)の指揮で「あすという日が」と「ふるさと」の2曲を合同合唱。内陸と三陸が一つになって生み出す優しくて力強い

い歌声は、復興ソングとなつて響き渡り、互いの絆を深めた。

講師の石井さんは「それぞれの団体に個性を感じた。心から合唱を楽しんでいることが伝わり、とても魅力あるコンサートだった」と講評した。

結

♪第2楽章 for you

神戸から気仙沼へ
震災で結ばれ、歌い継がれる「復興の歌」
愛する人へ、大切な人へ思いを届けるために



神戸再生の歌が気仙沼へ
歌が生み出す復興の力

95年1月17日に発生した阪神淡路大震災。直後に作られた一曲の歌がある。

「しあわせ運べるように」神戸の再生を願い、鎮魂と希望を込めた「心の歌」として、神戸の人たちが震災後大切に歌い継いできた曲だ。この歌が今、神戸から東日本へと広がっている。

気仙沼市内の10団体で構成される気仙沼市アマチュアコーラス連絡会。震災で会員の多くが被災し、現在は5団体に減った。それでも「義援金などたくさんの方の支援をいただき、活動再開のきっかけをもらった」と代

表の小山逸子さんは歌える喜びをかみしめる。

逸子さんは「しあわせ運べるように」の歌詞中の「神戸」を「ふるさと」に置き換えた「ふるさとバージョン」があることを知り、気仙沼市東日本大震災合同慰霊祭(11年9月開催)で歌いたいと出版社に問い合わせた。

すという日が」の楽譜50人が贈られてきた。コンサートではこの2曲を歌った。客席では、すすり泣く人も見られ、歌い終わると温かい拍手が送られた。人と人をつなぐ歌のパワーを感じた。

すると、歌詞中の「地震」を「津波」に、「神戸」を「気仙沼」に置き替えて、気仙沼の復興のために歌ってほしいと楽譜とCDが送られてきた。

また、同市の支援に来ていた島根県浜田市の職員から「元気を取り戻して」という励ましの言葉と共に「あ

「歌えることの喜びと、支えてもらったことへの感謝の気持ちを合唱で表わし、復興のエネルギーにしていきたい」

明日を見つめる。